

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 4年3月31日

事業所名:児童デイサービス・アニマート名護うむさの森

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	4	0	0	学習時と活動時でスペースを分けて行う工夫をしている。	
	2	職員の配置数は適切である	0	2	2		適正な人員配置であるが、送迎時間が重なった場合等、職員の増員の必要性を感じる。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	0	4	0	一部バリアフリーでない場所は二人介助で行っている。	完全バリアフリーと言い切れないが、職員が見守り安全面を考慮している。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	4	0	0		毎日のミーティングやケース会議等を行い、業務改善に日々努めていくよう継続している。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	3	1	0		アンケートの調査結果を職員間で話し合い、可能な限り保護者の意向に沿って療育の質を上げていきたい。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	4	0	0		ネット上で公表しています。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	0	2	2		連携している機関からの評価をもとに業務改善を行ってきたい。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	3	1	0	ネット等を活用している。	定期的に内部研修を行い、職員の質の向上に努めている。
適切な 支援の 提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	2	2	0	日頃から送迎時や電話・メール等で情報共有している。	利用者や保護者と目標の達成度や課題を共有して作成している。
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	4	0	0		アセスメントツールを使用し、個々の児童の特性や状況を判断している。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	4	0	0		職員間で話し合いプログラムを立案している。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	4	0	0	ネット等の情報を活用している。	児童の成長や季節、状況等を考慮しながら活動プログラムを決めている。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	4	0	0		平日、休日、長期休暇に応じて職員間で話し合い、活動プログラムを決めている。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	4	0	0		個々の児童の特性を理解し、個別と集団の必要性を考慮した上で作成している。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	3	1	0		十分な時間をとって職員間でミーティングを行い、確認している。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	4	0	0		日々の支援終了後、ミーティングを行い次の支援につなげている。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	4	0	0	支援終了後のミーティングで情報を共有して記録に残している。	
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	4	0	0		最低半年に一度のモニタリングを行い保護者の要望を聞き、支援計画の評価・見直しをし、作成している。
19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせさせて支援を行っている	4	0	0		職員一同で定期的に読み合わせをし、事業所のコンセプトをもとに可能な限り組み合わせている。	
20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	4	0	0		児童発達管理者が会議には参画している。	
21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	4	0	0	送迎時に担任と情報共有を図るようにしている。	下校時刻の急な変更等がまれにあるので、学校との連携を継続していけるようにする。	

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標	
関係機関 や保護者との 連携	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	0	0	0		該当者はいません。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	4	0	0		相談員や保護者、各種関係機関と情報共有を継続して行っていく。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	4	0	0		相談員を通して保護者の同意のもと、情報提供を行っている。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	0	4	0		コロナ感染予防の為機会がなかった。必要なケースの場合には連携を図っていく。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	2	2	0		コロナ感染予防の為機会が少なかったが、公園等を活用して交流し関わる機会がもてた。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	0	0	0		コロナ感染予防の為機会をもつことがほぼ出来なかった。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	4	0	0		保護者とは連絡帳とのやり取りや送迎時気になる事があった場合はお伝えしたり、必要な時は電話・メールでお伝えし、共通理解している。
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	4	0	0		必要に応じ送迎時や電話等で保護者の悩みを聞き、相談に乗っている。
保護者への 説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	4	0	0		契約時保護者に対して重要事項説明書を使い、支援内容、サービス提供時間、利用者負担等について説明している。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	4	0	0		迅速に対応出来るよう職員間で話し合い、訪問や電話で保護者に相談支援や助言を行っている。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	0	0	0		コロナ感染予防の為今年度は未実施。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	4	0	0		その日にあった事をその日のうちに迅速に対応出来るようにして、保護者の不満や不安の解消に努めている。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	2	2	0		定期的に通信発行を行っている。
	35	個人情報に十分注意している	4	0	0		契約時に個人情報使用同意書に同意を頂き、年一回保護者に肖像権同意書を確認している。
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	4	0	0		個々に合わせた伝達方法で情報提供に努めている。
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	0	0	0		コロナ感染予防の為今年度は未実施。
非常時等の 対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	2	2	0		各種マニュアルは策定しているが、保護者に周知しているとは言えないので、周知出来るよう努めていく。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	3	1	0		定期的に行っている。救出に関しては専門機関を通じて職員の危険認知度を高めていきたい。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	4	0	0		障害者虐待防止法を定期的に読み合わせ、チェックリストを活用し職員間の意識の向上に努めている。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	0	0	0		身体拘束を行う子どもがいません。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	4	0	0		保護者から医師の指示書に基づいた説明を受け、その説明に従って対応している。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	2	2	0		口頭にて職員間情報共有しているが、些細な事も書面化出来るよう努めていく。